

<b>1 学校教育目標</b>
教育方針 「道徳性の陶冶、真理の探究、心身の錬磨」 《育てたい生徒像》 ① 豊かな人間性と正しい人生観・世界観を備えた生徒 ② 勉学への意欲と困難に屈せず人生を生き抜く力を身に付けた生徒 ③ 強健な身体と強固な意志を持った生徒

<b>2 本年度の重点目標</b>
① 確かな学力の育成と個に応じた指導の充実 ② キャリア教育の推進と個性を生かす進路指導の充実 ③ 道徳教育の充実と命を大切に作る心の育成 ④ 国際・社会の形成者としての資質の育成と国際社会に生きる日本人の自覚の醸成 ⑤ 体力の向上、豊かなスポーツライフの継続、心身の健康の保持増進及び安全教育の充実 ⑥ 安全で安心できる学びの場となる環境づくりの推進 ⑦ 地域に開かれた信頼される学校づくり

<b>3 自己評価総括表</b>						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	特色ある学校づくり	地域を柱に社会に貢献できる人材の育成	○探究学習の充実	○探究学主任を設置し、菊池市の高校魅力化コーディネーターと連携して、探究学習の計画立案、円滑な実施を図る。	B	○菊池市と連携して総合的な探究の時間の実践を菊高ジャックで行った。学校設定教科「地域」では多様な外部機関と連携し体験学習を行った。生徒の学校評価では探究活動の充実について1年生90%、2年生85%が肯定的な評価であった。今後は、生徒一人一人の個人的な成長を促すことを意識し、進路と探究を一層密接にした持続可能な学習計画を立てることが課題である。
			○個に応じた指導の充実	○授業や家庭学習において、ICT(Classi)を活用し、個別学習を取り入れる。 ○二者面談、三者面談を実施する。  ○菊池市公営前進塾と連携し、個別学習のサポートを図る。	B	○一斉授業では電子黒板、個別指導では一人一台端末などを活用し習熟の程度に応じた学習をさせることができた。 ○学期毎に二者面談と特別保護者会を実施した。成績や出欠に関する職員研修を行い、学校全体で情報共有し、その後三者面談につなげた。 ○利用している生徒の個別学習のサポートはできた。また、3年1組の共通テスト受検対策を本校職員と連携して実施することもできた。今後は、利用者の増加が課題である。
			○小学校に対する啓発	○夏休みに小学生に対する学習支援を実施する。	B	○8月下旬に小学生に6人に学習支援を行うことができた。参加した小学生が少なかったためR6年度は7月下旬実施を検討する。
		地域の小中学校との連携				

		○中学校に対する啓発	○中学生向けにオープンスクールを実施する。		○オープンスクールを7月下旬に実施した。中学生参加者は117人だった。(R4年度は8月下旬実施、中学生75人) 11月上旬にも中学生向けの学校説明会を実施した。中学生15人、保護者9人が参加した。
安全管理の整備	安全管理に関する意識向上	○校内安全点検の実施  ○自然災害時に対応したマニュアルと体制を整備  ○新型コロナウイルス感染症を含む学校感染症防止対策の徹底	○健康保健部を中心に職員に周知・実施する。  ○防災主任を中心にマニュアルを整備し生徒、職員に周知、啓発を行う。  ○感染防止意識の向上と安心安全な環境整備を行う。  ○生徒・職員の健康状態の把握と感染症発生時の迅速な対応を行う。	C	○安全点検の各学期の実施と改善が不十分であり、実施と対応と報告の円滑な流れが部内での課題。事故防止項目についても追加する必要がある。 ○シェイクアウト訓練の実施、職員へのマニュアルを整備、周知により自然災害時の対応が明確にわかったが、生徒への周知・徹底には組織として課題が残る。生徒への周知には環境委員会などと連携することも検討の必要あり。 ○体調不良時のマスクの着用や咳エチケットについては意識が高まっており、特に食品を扱う行事等では消毒やマスクの着用を徹底し、感染防止策を講じることができた。 ○感染症対策として毎日の健康観察の実施が定着しており、流行期の状況把握や学級閉鎖の判断にも役立ったため今後も継続していきたい。
開かれた学校づくり	公開授業の推進	○公開授業を年に2回以上設定	○保護者・地域への公開授業の周知を行う。	B	○公開授業を2回実施し、学校全体で取り組むことができた。(6月、11月)11月は保護者及び地域へ公開した。参加者が少なかった点が課題である。
	広報活動の推進	○学校HPや広報誌「きくち」への掲載充実  ○熊本県教育委員会HPへの記事掲載	○学校HPの迅速な掲載  ○菊池市と連携を図り、市の広報誌へ記事を掲載する。 ○熊本県教育委員会HP「フォトニュース」へ学校の取組の記事を掲載し、学校の魅力を伝え	A	○行事予定表の迅速な掲載や学校HPにおける各種情報提供など必要に応じて掲載することができた。 ○菊池市広報誌への定期的な記事の掲載によって学校の魅力化を発信することができた。 ○熊本県教育委員会HP「フォトニュース」には未来探究・地域探究コースの取組を本年度内には掲載する予定で進めている。

			<p>○学校パンフレットやリーフレットの拡充</p> <p>○学校説明会などの情報発信のリーフレット作成や説明会で説明に使用するパンフレットを充実させる。</p>		<p>○菊高ジャックの取組や探究活動の取組など生徒たちの様子や活動について学校説明会のスライドやパンフレットへの掲載などリアルタイムに近い状況で掲載および発信することができた。</p>
		育友会との連携	<p>○育友会総会・各種委員会の充実</p>	<p>○各行事等において育友会役員との積極的な連携を図りながら取り組む。</p>	<p>A</p> <p>○総務厚生、広報、育友会林活動など学校行事が錯綜するなかでも流動的に対応することができた。課題としては学校行事の精選、一部の保護者への過重負担、各種委員会の時間帯などが挙げられる。</p>
	業務改善と働き方改革	勤務環境等の整備【教頭】	<p>○校務分掌の見直し職員間の連携強化</p> <p>○定時退勤日の徹底</p> <p>○年休等の取りやすい雰囲気づくり</p>	<p>○校長面談等による意見交換を通して適宜改善を図る。</p> <p>○業務を集約、整理して業務を適正かつ効率化する。</p> <p>○定時退勤日の週における呼びかけの実施と会議等の精選</p> <p>○年休15日以上取得者の増加を図る。</p>	<p>C</p> <p>○職員の時間外勤務縮減のため、業務改善を図る必要性は十分認識していたが、具体的な取組を行うことはできず、結果として、職員の時間外勤務時間の平均は昨年度より増加した。</p> <p>○定時退勤日の呼びかけは、職員朝会連絡及び職員室への掲示で積極的に行った。</p> <p>○年休取得に向けた具体的対策をとることはできず、15日以上の取得者（本採）は25%程度にとどまった。</p>
学力向上	教科指導力向上の学習指導	授業方法の改善【教務】	<p>○新しい学習評価を生かした授業づくり</p> <p>○評価方法の研究</p> <p>○ICT機器の活用（学習者用端末の活用）</p>	<p>○生徒に授業アンケートを実施する。</p> <p>○公開授業を実施する。</p> <p>○評価方法について各教科で検討したものを全教科で共有し改良していく。</p> <p>○学期成績や評定のチェック体制を整える。</p> <p>○生徒の1人1台端末を活用し、パフォーマンス活動の場を増やすことで、主体的・対話的で深い学びの授業を実践する。</p>	<p>B</p> <p>○今年度からGoogle-Formによる実施に変更した。その場で集計結果が分かるため、すぐに授業改善に役立てることができた。</p> <p>○公開授業を利用して研究授業を行った。</p> <p>○各教科の昨年度の評価方法を全教科で共有し、今年度各教科で改良することができた。</p> <p>○昨年度から活用している「評価算出シート」を学期ごとに改良していることで、迅速かつ正確な成績チェックができています。</p> <p>○各教科の授業で電子黒板やタブレットを活用した授業展開ができた。また、学校行事で生徒が自ら活用している様子があった。一方、タブレットの利用については今後ルール作りが必要である。</p>

				<p>○学習者用端末を家庭へ持ち帰り、家庭学習の教材・教具としての活用を行う。 （基礎学力の定着との連携） ○classroomを積極的に活用する。</p>		<p>○各教科でclassroomを活用し、授業連絡や学習課題の配信を定期的にタブレットで行っている。</p>
		基礎学力の定着	○家庭学習時間の確保と充実	<p>○家庭学習時間の調査を年2回行う。</p> <p>○家庭学習（週末課題）を課し、習慣づける。</p>	B	<p>○6月と11月に実施し、調査結果を二者面談等で役立てることができた。11月は菊翔文化祭の時期と重なり、学習時間が全体的に少なかった。また、この期間に限らず、家庭学習が必要となるような授業の在り方を考える必要がある。</p> <p>○国数英を中心に、週末課題に取り組みさせることができた。</p>
	読書習慣の確立	読書活動の推進	<p>○朝読書の完全実施</p> <p>○計画的な図書館利活用</p>	<p>○定期考査期間以外は朝読書を実施する。</p> <p>○探究学習や特別活動などで図書館の利用を促進する。</p>	B	<p>○概ね実施できた。</p> <p>○年度初めの職員研修で、図書館利用の意識づけは図られたが、利用実績に教科の偏りが見える。</p>
キャリア教育（進路指導）	進路保障	進路体制の再構築	<p>○進路研究の充実</p> <p>○特進クラスの育成計画の立案（国公立大学希望者3名合格） ○学力向上委員会を軸とした、生徒一人一人の学習段階に応じた指導体制および国公立大学入試の指導体制を構築する</p>	<p>○県立大学を中心に入試問題の研究を教科横断で連携して行う。（推薦入試対策） ○模試の資料をもとに進路検討会を実施する</p> <p>○Classiの学習教材を活用する。</p> <p>○菊池市公営前進塾と連携し、学年に応じた進路講演会を実施する。</p>	B	<p>○教科横断で連携した指導体制は構築できた。問題研究についても英語科を中心に進めることができた。</p> <p>○進路検討会の参加者が増加し、進学に対する職員の意識の変化が見られた。</p> <p>○Classiの活用は不十分であった。 ○学力向上企画委員会は主事の出張等が多く十分に開催できなかった。（月に1回程度） ○前進塾との連携は主事を中心に円滑にできた。進路講演会は1、2年生とも2回実施できた。（ただし、2回目は3月実施の予定） ○令和5年12月末日で国公立に2名合格している。 ○共通テストも22名受験し、4名が450点（得点率50%）以上をとることができた。</p>

	キャリア教育の推進	進路に対する意欲の高揚と職業観の育成	<p>○進路ガイダ ンスの実施</p> <p>○探究部と連 携したインタ ーンシップの 実施</p> <p>○就職指導の 充実と企業就 職希望者全員 合格</p>	<p>○進路指導部と 外部業者と連携 した講話を実施 する。 ○業者の実施す る上級学校説明 会への積極的に 参加する。</p> <p>○探究部と連携 して、先進校の 視察やセミナー などに参加し、 そのノウハウを 得る。</p> <p>○キャリアサポ ーターによる就 職面接を3学年 は1学期、2学 年は3学期に実 施する。</p>	B	<p>○＜進学＞外部での進 路ガイダンスへ4回参 加し、1、2年生で約6 0名の生徒が参加した。 ○＜就職＞外部での進路 ガイダンスを1、2年生 で各1回、工場見学を2 年生で1回実施した。ま た、外部講師を招聘した 講話を1年生で3回、2 年生で1回実施した。 ○探究部と連携した先 進校視察は進連協に 応募したが応募校多数の ため今年度は見送りと なった。セミナーにつ いてはオンラインセ ミナーに2回参加した。 ○就職希望者の進路先 未決定者が1月時点で 5名いる。 ○キャリアサポ ーターとの面談は2、3 年生ともに実施できた。</p>
生徒指導	生徒指導の徹底	基本的生活習慣の確立	<p>○段階指導の 実施 ○挨拶の励行 ○遅刻の減少 ○私物管理の 徹底</p>	<p>○服装、頭髪等 の指導を段階的 に指導する。 ○毎朝、正門で 指導する。 ○生徒会のあい さつ運動を学期 1回実施する。 ○組織的に取り 組む。</p>	C	<p>○学期始め、定期考査最 終日に実施し、学年毎 に指導が定着しつつあ る。 ○段階指導は、指導後 の入力、指導実施まで の把握が必要。発行後 の速やかな対応が常に 課題である。 ○朝の挨拶指導、挨拶 運動は、生徒会、職員 、育友会の協力により 、実施できている。 ○記名、品管理の呼び かけ等が必要であった。</p>
	特別活動の推進	生徒会活動の充実	○生徒主体の運営	○生徒会活動を充実させ、学校行事の充実と改善を行う。	B	○朝の挨拶運動やクラスマッチの運営等、自主的に考え行動する場面が多くなった。生徒会目標の達成状況の確認や、次回に向けた具体的方策に取り組める様になった。
		部活動の推進	<p>○部活動加入 生徒の増加と 実績の向上</p> <p>○奨励費の支給や同好会等の基準作りなど明確なルール作りを定める。</p>	<p>○活動環境の整備と学校全体としての取組を強化する。 ○部活動推進委員会を年2回実施し、委員からの意見や要望を部活動の活性化につなげる。</p>	B	○部活動指導員の活用によって、職員の働き方改革に効果的な面もあるが、顕著な部活動加入率の増加には至っていない。また、部の昇格や奨励費の支給に関して明確なルール作りが課題として挙げられる。
人権教育の推進	確かな人権感覚と人権意識の向上	共通理解と意識の高揚	<p>○隔週1回の 推進委員会の 実施 ○各種研修会 への積極的な 参加</p>	<p>○学期ごとに職員研修を実施する。 ○年1回以上の職員の各種研修会への参加を促す。</p>	B	<p>○隔週1回のペースで委員会を開き情報や問題点等を共有できた。 ○年1回以上の職員の校内外を含めた種々の研修会に参加してもらい研鑽を積んでいただいた。</p>

				○学期ごとに人権教育便りを発行する。		○学期ごとに人権便りを発行し、担当者としての想いを伝えることができた。
	教育相談	教育相談活動の充実	○支援体制の確立と共通理解  ○支援を要する生徒・保護者への相談体制の整備	○SC、SSW及び関係機関と連携した生徒支援を充実させる。  ○生徒支援委員会を週1回開催し共通理解と支援の方向性と役割分担を明確化する。  ○生徒理解研修を学期に1回実施し、全職員の共通理解を図る。	B	○SC、SSWへの相談体制は充実しており生徒・保護者は繋がりがやすく、必要時には外部機関にも繋がった。相談後の担任や学年団との連携がやや不十分なケースがあったため、その点が今後の課題である。 ○生徒支援委員会は週1回開催することができたが、情報共有に時間を要することが多く支援のための役割分担や具体的支援検討に至らないこともあった。今後は先の支援の話を実践させることが課題。 ○生徒理解のための研修は3回（1回は教務部主体の研修）実施することができた。
	命を大切に する心を 育む教育	生命の尊厳並 びに思いやり の心の育成	○命の大切さを教える取組の充実  ○講演会等を通しての啓発活動の推進	○「生命尊重」を重視した授業等を1回以上実施する。 ○実態の共有と健康教育について外部機関と連携した指導の実施。  ○職員による講話を学期に1回実施。	B	○今年度は保健講話を2回実施。1学期に性教育、2学期にがん教育を実施した。 ○講師とは実態と課題について事前情報共有を図ることができ、2回とも共通して講話の中に思いやりの言葉かけについて含めていただいた。実態に即した講話については、次年度も継続していきたい。 ○各学年集会で学年主任からの他者尊重の指導を行い、以降の行動変容に繋がった様子が伺えた。また、1・3年生へはSCによるSOSの出し方や言葉遣いの講話を行った。
いじめ の防止 等	いじめの 未然防止 いじめの 把握	いじめの減少	○いじめを生まない環境の醸成人権に配慮した被害生徒、加害生徒への対応・指導	○人権教育と連携した講話等を実施する。 ○クラス活動、コミュニケーションを高める教育を実施する。  ○職員研修を実施する。	B	○SC・SSWより生徒へのストレスマネジメント及び相談活用について講話を行うことができた。また、職員に対してもSCによる研修と生徒理解研修時のSSWの助言をいただくことができた。 ○職員へのニーズに合った研修会実施も検討の必要がある。
		いじめが疑わ れる事案の把握 の増加	○事案の把握	○二者面談を学期1回実施する。 ○いじめ防止ア	B	○各学期初めの個人面談旬間や学期毎の心のアンケートを実施することでいじめの早期発

				ンケートを各学期1回実施し、気になる生徒には速やかに面談を行う。 ○生徒の状況を把握するための生徒支援委員会を毎週1回開催する。 ○「いじめの防止等の対策のための組織」会議を各学期1回開催する。		見やいじめを訴えやすい環境を築き、生徒支援委員会や関係職員でのチーム会議にて情報共有や解決に向けた取り組みの役割分担を話し合うことができた。
	いじめに対する措置	速やかな事実確認といじめ解消に向けた取り組みの実施	○職員の組織的な対応 ○いじめ解消に向けた計画的な対応	○関係職員で聴き取りを速やかに実施する。 ○いじめ事案の認知を積極的に行う。 ○SC・SSW等の活用を積極的に行う。 ○対応マニュアルの点検を行い活用しやすいように改善する。	B	○教育相談担当、学年等を中心に個々の生徒に対して聞き取りを行うとともに、SSWやSCから指導助言をいただきながら対応を行った。同時に複数の案件を抱えた場合の迅速な対応は今後の課題である。 ○対応マニュアルの継続点検の課題が残った。
		人権に配慮した被害生徒、加害生徒への対応・指導	○被害生徒を守るとともに加害生徒に適切な対応 ○両者に対し寄り添いながら、継続した見守りと関係改善に向けた対応	○加害生徒及び関係した生徒の指導を適切に行う。 ○保護者との連携を円滑に行うとともに人権に配慮した対応を行う。	B	○被害生徒の側により沿った対応を心掛けながらも、加害側とされる生徒の心情や言動にも注視した対応を行うよう心掛けた。また、定期面談等を通しての継続的な指導を行った
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	総合型コミュニティ・スクールの充実	地域や関係機関との連携	○行政機関や地域との連携強化	○学校運営協議会等を通じて本校の課題と改善策を見いだす。	B	○本年度は学校運営協議会を学期に1回開催し、本校の課題等について活発に協議することができた。
		防災教育の充実	○生徒と職員の防災・減災に対する意識の向上とそれに関する基本的知識の獲得	○防災訓練を実施する。 ○防災啓発の掲示物を作成する。 ○外部講師と連携した防災教育を行う。	B	○地震発生時の避難訓練を臨機応変な対応が必要な形式で行った。その他の防災教育・啓発については十分に取組みず課題が残った。
	ボランティア活動の推進	心豊かな生徒の育成	○ボランティア活動の活性化	○卒業時まで全校生徒5回以上のボランティア活動を経験させる。 ○市や地域と連携を図る。 ○校内の奉仕活動、育友会林の維持管理活動を充実させる。 ○市・地域と連携しボランティ	B	○朝掃除やあいさつ運動など、生徒会や運動部が中心となって多くの生徒がボランティア活動に参加した。 ○1年生の育友会林作業で、自然や伝統を守る大切さを学ぶ機会を設けることができた。  ○菊池市主催の「城山の日」ボランティア活動に

				ア委員会活動を充実させる。		多くの生徒・保護者職員が参加した。
学校理解	学校理解に向けた活動の推進	○本校から地域への協力と本校学校行事への協力要請 ○学校行事への育友会協力のための連携充実	○地域から要請される清掃活動等へ積極的に協力する。 ○育友会広報誌「大掠」での学校行事紹介や活動報告の充実を図る。 ○育友会「一人一役運動」を活性化させる。 ○育友会関連行事への保護者参加の増加を図るため、Classi配信の活用や役員会を充実させる。	A	○菊池市主催の「城山の日」清掃ボランティアにおいては、生徒、職員、保護者の参加が非常に多く、学校全体として地域の奉仕活動に貢献することができた。 ○各学期、広報委員会の活動が充実し、計画的に育友会広報誌「大掠」を発行することができたが、保護者・職員の一部の負担増加が課題である。 ○早めの情報提供、出欠の集約など組織的に対応することができた。	

<p>4 学校関係者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科の学科改編によって「未来探究コース」「地域探究コース」を設置し、菊池市と連携して地域課題解決に向けた探究学習の充実を図っており、生徒も肯定的な評価をしている。「地域に根ざした菊池高校」が菊池高校の魅力である。今取り組んでいる探究学習をさらに発展させ、成果（菊池高校生の変容）を地域にどう伝えるかが今後の課題である。</li> <li>・菊池高校生が、地元企業や施設、商店街などで体験活動を行い、そこから地域課題を発見するというような学習をしていくと、菊池高校の新たな方向性が見えてくるのではないかと思うのでどんどん地域に出て行ってほしい。</li> <li>・特色を明らかにしないと生き残れない時代で、どの学校も必死で特色を出そうとしている。菊池高校は、「地域」にとことんこだわって、他校と差別化を図ってほしい。</li> <li>・地元企業で長期インターンシップを行うなど、体験的な学習がしっかりできるとよいのではないか。</li> <li>・菊池高校生と地元のイベントでもっと連携したいので、積極的に案内したいと考えている。学校の行事予定の情報が入ると案内もしやすいので検討してほしい。</li> <li>・国際交流協会や図書館との交流を深めたい。菊池高校生が外国人とふれあう機会にしてほしい。</li> </ul>
--

<p>5 総合評価</p> <p>普通科の学科改編の2年目として、菊池市との連携のもと探究学習のさらなる充実を図ることができた。特に、「総合的な探究の時間」においては菊池市高校魅力化コーディネーターを活用し、菊池市役所や熊本大学と連携した取組を行い、地域課題解決に向けた探究的な学習を深めることができた。また、学校設定教科「地域」における学校設定科目「地域探究」の時間には、地元自治体、消防、自衛隊による防災教育、若手起業家の講話、半導体関連企業による講演、地元企業へのインターンシップなど、コーディネーターの活躍により、様々な取組を実施した。このことは、生徒の本校における探究学習への肯定的評価にもつながった。</p> <p>商業科においては、課題研究におけるイベント「菊高ジャック」も3年目となり、地域課題解決に向けて生徒が主体的に取り組み、来場者数からも高評価を得るなど成果を上げることができた。</p> <p>学力向上においては、新学習指導要領の趣旨に沿って授業改善に取り組んだ。各教科で昨年度研究した評価方法を全教科で共有し、改良を図ることで、生徒が分かる授業を展開することができた。</p> <p>また、菊池市公営塾「前進塾」と連携し、個別学習のサポートや共通テスト対策講座を実施することによって、生徒の学力向上に繋げることができた。</p> <p>進路指導に関しては、進路ガイダンスの実施や大学・企業訪問などを実施し、生徒の進路意識を高めることができた。</p> <p>スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーへの相談体制を充実させ、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境を整えた。</p> <p>本校は、地域から期待されている一方、菊池市内の中学生にとっては魅力的とは言えず、菊池市内の中学生の志願者数が伸び悩んでいる。「地域」を軸に地域活性化に貢献できる人材の育成をすすめるとともに、生徒の学力向上を図り、国公立大学への進学実績を伸ばしていくことにより、地域からの信頼回復に努めていく。</p>
---



## 6 次年度への課題・改善方策

・次年度は、普通科の学科改編の完成年度として成果を示す年度と位置づけている。菊池市高校魅力化コーディネーターを活用し、菊池市や地元企業とのさらなる連携のもと探究学習を充実させる。

具体的には、昨年度までは「総合的な探究の時間」（2単位）に取り組んでいた菊池市との連携を、普通科地域探究コース2年次に開講されている学校設定科目「地域探究」（3単位）で取り組むこととし、連携する部署も生徒の興味関心に合わせて一部変更することによって、生徒の進路に結びつく取組とする。

・普通科未来探究コースについては、大学進学への対応を明確に打ち出し、生徒の大学進学への意識を喚起するとともに、職員の意識改革を図るため職員研修を実施する。

また、菊池市公営塾と連携し、大学進学に向けた講演や講座を進路指導部の企画により定期的に実施する。

・生徒指導に関しては課題が多い。現在、「規則を守らせる生徒指導」が限界にきている。生徒が納得できる生徒指導を目指し、生徒支援的な観点も取り入れた生徒指導の在り方を全職員で検討する場を設け、また、研修なども実施し、生徒指導の改善を図る。

・働き方改革については、業務改善及び精選を進めるとともに、職員の担当業務の平準化を図ることにより、時間外勤務時間を縮減する。